

日本をテーマにした大連プロジェクトが始動

趙 万利

〈総工費1000億円の日本をテーマにした大型複合施設プロジェクト〉

大連は、日本の租借地としての歴史から大連駅、満州鉄道の本社や大和ホテルなど、今でも評価の高い建築物を造ってきました。親日的な人が多いという背景があるからでしょうか、日本の建築様式は今でも大連で好まれているようです。



【大和ホテル】

大連市政府は4月22日、「京都風情文旅小鎮プロジェクト」が今年上半期中に着工することを発表しました。総工費1000億円（60億人民元）をかけ、100万㎡の敷地内に日本をテーマにした大型の複合商業施設を造る計画です。

場所は大連市北部に位置する「大連金石灘度假区」。市内中心部から約50km、車であれば約2時間で到着できる国家旅遊景区5A級のリゾートエリアにあります。計画では京都の二年坂、三年坂のような純和風の街並みの中に、ホテルや旅館、居酒屋などの施設を300から400店舗配置するという大規模なプロジェクトです。

そして、そのプロジェクトの開発は、同市に拠点を置く地元の有力企業、大連樹源湯景沢房地產開発有限公司（以下、大連樹源）が手掛けます。

〈企画・設計は日本のデザイン集団〉

本プロジェクトの企画・設計は日亜設計集団が担当します。日亜設計集団日本の設計会社を中心に7社の企業

で構成されたプロジェクト集団。通称「JCAP7」とも呼ばれており、計画・設計・運営など各社の得意分野を活かし、「美しい日本のデザインを世界に」を発信する日本の企業たちです。

この「JCAP7」は、2017年に大連樹源と組んで日本風の湯景澤温泉ホテルや住宅を大連で展開しました。それが高く評価され、約200戸の住宅が好評のうちに完売。大連市の計画局もこの樹源集団の街づくりを高く評価しており、今回、この湯景澤温泉ホテルに近い金石灘地区に67万㎡という広大な敷地が貸与されたというわけです。そして、ここに京都風住宅と商店を融合させた街を造るという計画が持ち上がり、昨年11月20日に湯景澤ホテルで調印式が執り行われました。

〈2020年オープン予定〉

本プロジェクトは大連市政府の発表にもあるとおり、今年上半期中に着工し、2020年中にメイン通りとなる商店街部分から開業を開始します。その後、4年間かけて第2期、第3期のプロジェクトを順次行っていく計画。大連市ではこれまでも日本をモチーフとした温泉ホテルや健康ランドといった施設はいくつもありませんでしたが、ここまで大規模なものは初めて。また、民間事業ではありますが、大連市政府からも情報が配信されるなど、あらゆる方面からの期待値が高いことがうかがえます。今後、中国を代表する観光名所になってくれることを期待します。



【遼寧省對外貿易經濟合作庁（旧大連警察署）】